



ここにこんな人が わたしの履歴書

(株)高知丸高
専務取締役

高野 一郎



高野 一郎 (たかの いちろう)
昭和44年 5月14日高知県生まれ
昭和11年 (株)高知丸高入社
平成17年 専務取締役に就任

■ 郷里・幼年・学生時代

2010年NHK大河ドラマ『龍馬伝』の主人公で有名な、坂本龍馬生誕地であり、高知県高知市で、基礎工事業を営む建設会社の長男として生まれました。

幼少のころ、四国高知は台風銀座と形容されるほど、毎年大型台風が直撃し、道や橋、河川港などのインフラが破壊され、またそれに伴い必然的に建設業者が多く活発で、そして、四国外では当たり前的高速道路も、やっと四国内

県庁所在地同士を結ぶ単線高速道路が建設開始を向かえ、又、JR等のインフラ整備も加わり、非常に公共工事には恵まれている地域であり、悪く言えば、公共工事に依存した、これといった産業・工業が無い典型的な公共工事依存県でした。

その中で、父親である社長は、いつかこの整備も終わり、台風が来ても破壊されない橋や道路、河川、港の完成を予想し、高知以外で通用し、先駆者がいなくライバルも少ない分野への進出と、開発に目を向け進んでいました。

高校までは高知に居た私も、その様な苦労も知らず、正直3K業界といわれる建設業には興味もわかず、東京の国際系の大学に進学しました。

高校、大学と、海外への関心が日増しに大きくなり、数度の留学等を経験。8年が経過し、地元の社業への関心と、郷土高知は僻地の為、これからの特殊建設業は地元の公共工事に頼るだけでは衰退して行くだけであり、何処にでも直ぐ駆けつけるツールとして、飛行機とヘリコプターの操縦資格を取得、双発・水上の免許まで取得でき、日本の免許に変更後機高。父親が興した(株)高知丸高に入社。

学生時代のスポーツは、小中学校で柔道、高校でラグビー、大学でアメフトで心身を鍛えました。

■会社の歴史

- 昭和42年 有限会社高知丸高運輸 設立
- 昭和63年 有限会社高知丸高に社名変更
- 平成 6年 株式会社高知丸高に組織変更
- 昭和56年よりロックオーガを導入し岩盤削孔への挑戦が始まる
- 平成13年 パーカッション掘削工法 重錘式工法導入
- 平成13年 パーカッション掘削工法ダウンザホールハンマ式工法導入
- 平成15年 超大起振カバイブプロフォンサーPTC (100HD) 導入
- 平成15年 超高圧ジェット(450kgf/cm²)併用工法導入
- 平成15年 仮橋架設工法SqCピア工法開発

■経営

本社組織は5部門と1工場で構成。
営業管理部・工事部・技術部・設計部・機械設計部・重機工場。
事業内容は5つの事業を営業種目としている。

特殊基礎工事…大口径岩盤削孔、土留杭・抑止杭、橋梁基礎工事、井戸掘工事等
橋梁・鋼構造物の設計、構造計算、製作施工
一般土木
建設機械及び橋梁設計、構造計算、製作施工
機械器具設置工事

■社会に出て

入社時は、四国内の高速工事もほぼ完了し、台風ではびくともしないインフラ整備もされ、公共工事のパイは小さくなっていました。その中で当社は、様々な関係各位や、社員、関係者のお陰で、岩盤削孔に関しては評価を頂き、四国外にも工事を進出していました。私は、様々な現場を何年も経験した訳では有りません。あの頃の当社は、2次3次下請けは勿論、それ以下の工事もあり、所長と名刺交換も出来ない立場でした。当然、我々がその立場なのには原因も有り、また各中間の業者様の指導や管理がなければ施工が出来ないのも確かでした。しかし、これから当社が繁栄するには、特殊な技術と並行して、発注者が求めるニーズにすばやく対応し、社員のモチベーションやモラルも向上させ、企業の大小ではなく、専門分野での自立でした。しかしその変革の過程で、当社が今まで見たことも無かった書類や、施工管理、または工期延長や事故等に対するペナルティー等に直面しました。そして、少しずつ、優秀な管理社員を採用し、提案・計画・積算・管理・施工・報告が当社で一括出来るよう社内体制を変革させて行きました。

■信条・趣味

当然進行過程では、様々なトラブルもあり、紆余曲折もあり、関係各位にもご迷惑をお掛けしました。その中で、私自身信念に有るのが、お客様から信頼される専門業者は、『提案・計画・積算・管理・施工・報告を一括で行い、高い技術と提案力、そして安全を含め信頼を得た、下請無の直営施工』だと気づきました。

これを行うとなると、正直私どもの能力では、施工班は10班までが限界ですが、逆に小回りが利き、収益性についてもベストでないかという気がしています。

趣味はダイビングです。

■今後の展望

TV新聞を見ていても、景気の回復は見込めず、公共工事は無くなりはいませんが、一時の増加は有っても、将来的には下降の一途を辿ると思います。その中で、基礎屋は基礎屋として、足腰の強い、小回りの利く、専門工事業者として展開したいと考えています。企業を大きくする事や多角経営に興味がないという嘘になりますが、天の時・地の利・人の和を持って、今は足固めをする時で有り、筋肉質で鋭敏な企業にしたいと思っています。

当社は、岩盤削孔のスペシャリストとして、日々邁進させて頂いております。最近では、産学連携により技術開発や特許取得も行い、地元高知へのCSR活動にも勤めています。私自身もまだまだ至らないところばかりであり、日々謙虚に精進し、当社の社員は勿論その家族、そして関係各位、そしてこの協会の皆様、最後に市民県民国民人類が未来永劫に幸福でいられる社会になって頂きたいと祈念しまして終らせて頂きます。

編集後記

協会ニュース発刊にあたり、執筆者の皆様にはご多忙のところご協力頂きまして誠に有難うございました。(編集分科会)